

げんき通信

虫刺されのおはなし

【蚊】
夏はバーベキュー、登山、キャンプなどアウトドアが楽しい季節ですが、それと同時に悩まされるのが虫刺されですね。人を刺す虫は種類が多く、症状もさまざまです。蚊ツメダニ・毛虫・シラミは痒くなり、ますが、ブヨ・アブ・マダニは痛痒くなり、ハチ・アリ・ムカデは痛みが出ます。

日本には約100種類もの蚊がいますが、人を刺すのはヒトスジシマカ、アカイエカ、ナカイエカの3種類、その中でも産卵期を迎えたメスです。蚊は汗っかきの人や体温が高い人を好むため、こどもたちは狙われやすいのです。また、人が吐き出す二酸化炭素に反応するので、飲酒や運動の後も刺されやすくなります。

掻かなければ数日で治りますが、掻きまわしたところから細菌が入ると、とびひなどの皮膚炎を起こすので、乳幼児は特に注意が必要です。いろいろな虫除けグッズもありますが、小さなお子さんがいる家庭や、自然のものを好む方は、ゼラニウムやレモングラスなど

【ダニ】
ダニは大きく家ダニと屋外ダニに分かれます。家ダニには食品などに発生するコナダニ、衣類やカーペットなどに発生するヒョウヒダニがいて、人を刺すだけでなく、死骸・卵・抜け殻がアレルギーの原因になります。ダニは高温多湿を好むため、布団・カーペットなどはこまめに天日干しをしましょう。この時に布団を叩くとダニの死骸が表面に出てきてしまうので、叩かず干して、その後に掃除機で吸うのが効果的です。

屋外に住むマダニは肉眼で見えるほどの大きさで、人の血を吸います。刺された時は無理に取ろうとせず、医療機関に任せてください。後から悪寒・頭痛・高熱が出ることもあり、まれに重症化することがあります。

【ハチ】
ハチから先に攻撃してくることはありませんが、縄張り内に入ってしまうと危険です。症状の程度はハチの種類によっても違いますが、スズメバチなど毒性の強いものと、発疹・かゆみ・しびれなどのアナフィラキシーショックが起きます。特に2回目以降は重篤な症状が出やすいため、すぐに受診してください。

患部に針が残っている場合はピンセットなどで取り除き、流水で表面の毒を洗い流してください。黒い服や整髪料の匂いは蜂を刺激するので、避けた方が無難です。●これからアウトドアのイベントを計画中の方は長袖・長ズボンを着て、虫除けグッズと刺された場合の薬も用意して、楽しい夏を過ごしてください。

いろいろな虫に刺されないための予防と刺されたあとの対策についてです。



(中の小路店:薬剤師/ひらかわ)

C O L U M N

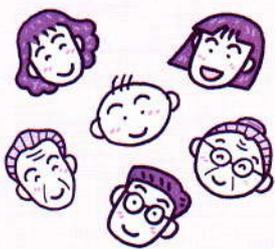
げんきコラム

薬をのむ時は…



錠剤やカプセルをのむ時に、いっしょに水分を摂っていますか? 水なしでのめるからという声時々ありますが、薬はまず溶けてから体内に吸収されるので、水分が足りないと、効果が出るまでに時間がかかってしまいます。食事で水分を摂った直後ならあまり気にしないでいいのですが熱や痛みの薬など、特に早く効いてほしいものなどは多めの水分といっしょにのむことを心がけてください。

処方せんはせんぶ「くほ薬局」におまかせください



すべての病院・医院の処方せんを受けつけ責任を持って調剤いたします。

ご家族みなさんのかかりつけ薬局としてご利用ください

あなたのまちのくすり箱

くほ薬局

- 県庁通り店 ☎23-4550
- 中町店 ☎26-2817
- 木原店 ☎24-2233
- 中の小路店 ☎24-2882
- 西与賀店 ☎22-2311
- 医大通り店 ☎32-1133
- 北茂安店 ☎0942-89-1777